

学校の教育目標：やさしく かしく たくま 経営方針：心の宝物が輝く学校



# かさはら TEAM

令和 3 年度  
笠原小学校  
学校便り  
4 月 8 日号

児童会：新しいリーダーによる新しいスローガンと楽しみにしています

## 春爛漫 新たなスタート 校長 鈴木 稔朗

56名の卒業生と、11名の職員を送り出したのはついこの間のことなのに、ずいぶん時間が経ったような気がします。その頃から急に温かくなり、桜も一気に開花したので、実際の時間よりも季節が進んだように感じるのかも知れません。春4月、新たに54名の新入生と11名の職員を迎えることができました。転出入のご挨拶は、裏面の紹介をもって代えさせていただきます。令和3年度、新しいチーム笠原の船出です。どうかよろしく願いいたします。

\*\*\*\*\*



「こんなところに、あんなところに、ああ、あの谷間にも。身近に、こんなにもたくさんの桜の木があったのだ」

こんな感慨を、今年も味わうことができました。この時季、散歩しながら、校長室から笠原富士を眺めながら、車で走りながら、様々なところで咲いている桜に気がきます。通い慣れているはずの通勤路でも、思いがけないところで咲き誇る桜を発見することがあります。一年の内のほんの一週間程度、鮮やかに咲き、私たちの心を打つ桜も、花の季節以外は、山や周囲の風景に完全に溶け込んでいて、そこに桜の木があると気付くことはまずありません。小さな発見の喜びは、春という季節の贈り物のようです。

里や街の桜は、かつて先人が、何らかの願いや祈りを込めて植えたに違いありません。山里の桜並木が小さな神社に続いていたり、しだれ桜の巨樹が、大きな農家を抱えるように立っていたりするのを見ると、いったいつ、どんな人が、どんな思いで若木を植えたのだろうと思いが巡ります。桜を愛(め)でる感慨が一層深まります。

私たちが桜を愛でる時季は、花が盛りのほんのわずかな時間に過ぎません。しかし、桜は、花の時期以外にも、絶え間なく活動しています。暑熱に耐えて葉を茂らせ、風雪にさらされながら、その身の内に養分を蓄える命の営みを、あのごつごつした表皮の内部で続けています。淡いピンクの雲のように美しい、満開の花びらだけでなく、幹の内部のその営みにこそ目を向け、感動できるチーム笠原でありたいと強く願っています。

今年度の本校の学校経営方針は「心の宝物が輝く学校」です。昨年度以上に、子どもたちが自分の存在やよさに対し、例え小さくても確かな自信をもつことができる教育を全力で推進していきます。そのとき、桜の花を愛でるように、表面に表れた行動や発言だけに目を向けて終わらないようにします。その子が、その行動や言葉を選び取っているとき、あるいはそれまでの間に、どれだけの努力や辛抱をしてきたのか、そこにこそ目を向け、目に見えない挑戦や頑張りを愛でる、子どもの心に寄り添う職員集団であろうと決意しています。

お家の方が、思いや願いをかけられて、この世に送り出してくださった大切な子どもたち。誕生日は命の記念日です。今年も大切にします。そして彼らが美しく咲く姿だけでなく、心の内で、まだ小さな体の中で懸命に積み重ねた努力や勇気を、心から愛おしみます。

春爛漫、花の時季を終えつつありますが、葉桜もまた桜。47名の職員一同、いついかなる時も子どもたちを愛でてまいります。保護者の皆様、地域の皆様におかれましても、思いを一つにいただき、共に歩んでいただきますよう、心よりお願い申し上げます。